

第7回「学問と社会のあり方」研究会(2007年11月22日)

市民のための歴史、理系のための歴史  
- 歴史教育の再生をめざして -

桃木至朗

(大阪大学文学研究科)

# I 歴史学と歴史教育の現在

# 1. 高度な発展

- グローバル化とIT化による学問・教育の進歩。
- 世界の変動に対応した新しい視点や領域の出現
- (例) 東南アジア、アフリカやオセアニアの歴史、海から見た歴史、女性から見た歴史、環境と災害、病気の歴史、衣食住の歴史...

日本の歴史研究は、きめ細かさと世界の全域について専門家を擁する点で世界一。歴史教育も全世界の歴史を教えようとする点に特徴

## 2. しかし制度疲労と深刻な危機

(歴史だけに限ったことではないが)

- 「暗記ばかり」「現代社会の役に立たない」歴史学習の拒否と、アメリカ型の非歴史主義的思考の一般化
- 極端な政治的歴史観の流行
- 社会・論壇における「歴史家」の発言力と、「大河ドラマ」「時代劇」的共通知識の消失

# (1) 歴史をとらえる枠組み

- 明治以来の、「脱亜入欧」に必要な、成人男性の教養。
- 第二次大戦後の **観念的な進歩主義・平和主義** (欧米モデルによる近代化をもっと徹底しようという思想)。

**\* どちらもアジアや「女子供」は視野の外！**

## (2) 学ぶべき歴史のイメージ

- 各国家・民族がセパレートコースで競争し、「進んだ」「遅れた」の差ができる歴史。
  - 各時代の最先端、最高峰、メジャーなものだけの歴史(とくに文化史)。
- \*歴史を学ぶ子どもたちに対しても、「競争に勝って一流になれ、そうならない者には価値がない」というメッセージ?**

## (3) 日本社会の欠点

- 細かいところばかりこだわって全体を見ない 「歴史学の方法や現状を主要下位領域に区分して解説し、通読すれば歴史学の全体像がわかるようにした入門書」が作れない。
- 横並びの発想が強く、みんなとちがったことができない。みんながやってることはやめられない。
- 自分の属する集団の外部に向けて自分の知識や考えを説明したり、外部の人間と討論する能力がきわめて低い( 「日本語は論理的でないが自然の描写や感情表現に優れる」などという19世紀的理解を引きずった、国語教育の深刻な欠陥)。

# (4) 大学・高校の保守性と学習指導要領の失敗

- 「入試が変わらない」「教科書は訳がわからなくなる一方」の背後にある大学(とくに人文系)・高校の保守性と研究者・教員の視野の狭さ。歴史学と教育学(地歴科教育法)の間のカベ[前者は「専門性」から出られず、後者は歴史教育の抽象的目的と具体的な(個々の)授業実践の方法に終始]
- 学問の進歩と世界の動きから見れば評価すべき現行学習指導要領と教科書の新しい内容が、条件整備を欠いたために現場ではうまく教えられない。内容を「元に戻す」ことが自殺行為だとすればどうすべきか？



# (5) 阪大史学の挑戦

- シルクロード史(中央ユーラシア史)、東南アジア・海域アジア史、近現代のグローバルヒストリー(国ごとの歴史の寄せ集めでない世界史の全体像を研究する)など**世界を広く見渡す歴史研究。**
- 古代日本国家の成立(考古学)や日本中世史の定説に対する、関西の視点を活かした書き換え、フィールドワークを重視する中国史など、**現場感覚に根ざした歴史研究。**
- 「大阪大学歴史教育研究会」などを通じた、歴史教育刷新の取り組み 高校教育への働きかけだけでなく、大学の教養課程・専門課程、さらに大学院の授業改革まで： 世界レベルで活躍できる研究者・社会人を育成するため、 **良い教科書が書け入試問題が作れ教員養成ができる研究者 = 大学教員を養成するための、目的を明確にした積み上げ式のカリキュラム(語学と外国語史料読解、個々のテーマの研究手法、発表と討論etc)と、きめ細かい履修指導による「再チャレンジ」「飛び越し」「はみ出し」などの奨励。**

## II わかる歴史、面白い歴史、役に立つ歴史

### 1. 歴史とは？

# (1) 暗記科目か？

- 一定の暗記が必要だが、多数の事実の中からパターンや傾向を読みとり、それに基づいて推論することも必要な点で、語学と似ている(化学や生物とも?)

2007年1学期「市民のためのアジア史」小テスト例  
モンゴル帝国と現代アメリカ合衆国の共通点を説明せよ。

辛亥革命(1911年)後の中国は領土、民族などの点でどんな国家になるべきだったか、当時の状況をふまえて、孫文になったつもりで考えよ。

## (2) 科学か？

- 「実験で再現できる法則がある」という条件は満たさない。しかし恣意的な解釈ゲームだけをしているわけではなく、立論の根拠を確認できるように明示しておく、一定の約束に従って用語や概念を使用するなどの点で、「学問」ではある。
- 唯一絶対の正解を求めるのではなく、複数の方法を適宜使い分けて事態(歴史理解)の改善をはかる点では、臨床医学や臨床心理学と似た面も。

## 2. 歴史教育は何の役に立つか？

### (1) 一般的効用

- 現在の社会は歴史の積み重ねの上に成り立ったものだから、歴史(とくに近現代史)を学ぶことで、現在を理解し未来を展望する力が身に付く。  
[歴史の変化する面がこれを要求する]
- 過去の人類のさまざまな成功や失敗の教訓に学ぶことで、よりよい生き方、よりよい社会が可能になる。[歴史の変わらぬ面、繰り返す面がこれを要求する]
- 「過去という他者」(外国史なら二重の意味で他者)を学ぶことで、他者理解や異文化コミュニケーションの能力が鍛えられる。
- 複数の資料を批判的に読んで事実を確定する訓練は、情報リテラシーの涵養につながる。
- 「時代」や「社会」などを研究することで、「長い目で見ると」訓練、巨視的な視野が身に付く。
- 「事実は小説より奇なり」 良質な娯楽や知的興奮の材料となる。

## (2) 歴史を知らないと(考えないと) どんな失敗をするか？

- 近年の「教育改革」のように、旧日本陸軍と同じやり方でデタラメな「戦争」をする： 指導部が大局的な戦略をもたないし無責任、不十分な予算・補給で現場に突撃ばかり命じる。文句を言うと敢闘精神と工夫が足りないといふ非難する。現場は勤勉だがワンパターンで金太郎飴的な戦いしかできない。
- 現在の(たまたまそうなっている)状況や仕組み、価値観などをずっと変わらないものと思い込んで、繁栄の裏に忍び寄る危機を見逃したり、逆に問題点を改革するチャンスを見送ることがある。[巨人中心の野球報道から学界や学問の仕組みまで]

- 現在の「先端技術を使いこなせる先進国の健常者」が当たり前だと思い込んで、その基準通り動けないハンディキャップのある人々や発展途上国の人々が理解できず、そういう人々を蔑視したり、無理を強いたりすることがよくある。  
[ODAからNGOまで]
- 悪意はなくとも、外国人やよその地方の出身者とのつき合いがうまくいかない場合がある。[第二次世界大戦や植民地支配の話だけではない]。
- 発展途上国でのカネがからんだ仕事で、ぶっかけられて大損したり、善意でカネを払って現地社会に亀裂を生むことがきわめて多い。[貨幣経済が最近侵入するまでは、ずっと昔から自給自足で素朴に(地縁血縁に縛られて)生きてきた素朴な村人たち、などという非歴史的な虚像を信じてはいけない]

# 3. 文理融合型の「面白い歴史」は可能か？

## (1) 自然と環境

・地形・地質、気候、水文、動植物、天然資源、天災...

## (2) 科学と技術

・農林水産業、牧畜(遊牧)、手工業、暦法、軍事・武器技術、医療、自然観と人間観...

## (3) 暮らしと生死

・衣食住、世代サイクルと人生サイクル、誕生と死、人口変動...



## (4) 論理的な考え方

- 人間の技術や智恵は昔に戻るほど単純で低レベル？
- 個人の自由は昔に戻るほど小さかった？
- 昔はどの家も子たくさんだった？
- 国や組織が滅びるのはすべて政治・軍事・経済などの力が衰えたため？
- 社会のあり方や人の行動を決めるのは単一の要素(例: 国家、宗教、経済、技術)か？

## (5) 東南アジア史に見る例題

- 「年に2回(3回、4回)コメが穫れる」 2期作(3期作、4期作)が古代から普及？
- 熱帯雨林は豊かな農業地帯か？ 東南アジアの土壌は肥沃か？
- コメ輸出世界一を争うメコン・デルタとチャオプラヤ・デルタは古くから穀倉地帯だった？
- コメを大量に輸出する穀倉地帯イコール集約農業地帯？

## 4. 本日の課題

**問題:**もし江戸幕府が鎖国しなかったら、日本はどうなっていただろうか。その点から見て、鎖国にはどんな得失があっただろうか。「どの国も本来はヨーロッパ諸国と同じように発展するはずだ」という観念論でなく、17～18世紀アジアと世界の現実から考えよ。

# (1) 16～17世紀(大航海時代)の 東アジア・東南アジア

- ヨーロッパ人の活動で「世界の一体化」が始まる。世界経済の中心だったアジアは、日本銀(石見銀山)とアメリカ大陸産銀(メキシコ銀)の大規模な流動に支えられた空前の好景気…東アジア最大の貿易は日本銀と中国生糸の取引。ただし倭寇問題などがあり日中の国交は断絶したまま。
- しかし17世紀中後半の世界的危機: 銀の過剰流動による通貨混乱と、過剰開発による森林破壊などの環境危機。
- \* 科学革命が始まっているが、ヨーロッパの社会・文化はまだ「近代的」でも「アジアより先進的」でもない。

## (2) 日本の鎖国の実態

- 1641年の鎖国完成後も長崎だけが窓口ではない：  
薩摩～琉球～中国ルート、対馬～朝鮮ルート、蝦夷地～北方ルートと合わせ「4つの口」があった。
  - 長崎貿易の相手はだれか？
    - オランダ人(貿易高の1/3)：オランダ東インド会社(本拠地はインドネシアのバタヴィア)の各拠点との貿易
    - 中国人(貿易高の2/3)：鎖国当初(中国では明清交替)は鄭氏などの海賊集団と東南アジア華僑。1683年以降は清朝が日本銅や海産物購入のために許可した特定の商人集団と東南アジア華僑
- \* 長崎貿易の大半はアジア貿易

## (3) 鎖国の意図

- 直接の意図はキリスト教の布教やキリスト教国の侵略、キリスト教国同士の戦争に巻き込まれること、キリスト教国と結んだ西国の大名の反乱などの事態を防ぐこと。
  - あわせて幕府による貿易の独占、通貨の統一管理など
- \* 当時は「国を閉ざす」とは考えていない。あくまで現実の情勢に対応した管理強化措置

## (4) 「鎖国」の実体化

- 17世紀後半から銀資源が枯渇、幕府は輸出品を銅や海産物に切り替えて、生糸・絹織物などの輸入を維持しようとするが、しだいに貿易規模が縮小(18世紀には人口比で最盛期の1 / 10程度)
- 18世紀後半から「開国」を求めるヨーロッパ諸国に対し、「鎖国は祖法である」として拒否  
1850年代にようやく開国

# (5) もし鎖国していなかったら？

- 当時の日本は軍事大国 200年早い「大日本帝国」が実現した可能性も
  - しかし逆に、「17世紀の危機」の打撃を受けて混乱し、キリスト教国の植民地になった可能性・・・そのとき経済面で実権を握ったのは間違いなく華僑ネットワーク
- \* 鎖国により日本は世界的通貨危機の直撃を免れ、華僑ネットワークの進出も食い止めた！（もとの人口が少なかったため本格的な環境の限界は18世紀まで来ない）



## (6) 鎖国のもとで実現したこと

- 華僑ネットワークに牛耳られない独自の市場経済(中心は大阪)
  - 貿易縮小を可能にした輸入代替工業化(生糸、砂糖など)
  - 全国的に均質度の高い文化と国民意識
- \*ただし琉球(砂糖生産)、蝦夷地(漁業や狩猟)は「植民地化」

# これらが幕末以降の急速な近代化の基盤

## (7) 鎖国の負の側面

- 現実的国際感覚の後退・・・国民意識の独善的な部分(神国思想)につながる。

- **語学が苦手**

倭寇の時代にはバイリンガル、トリリンガルは当たり前だったのだが...)

# ( 8 ) 17世紀の危機への対応が決めた 世界各地域の近代史

- ヨーロッパ: 植民地拡大で「前向きに」乗り切り工業化・近代化に成功(軍事力と環境負荷は拡大の一途)
- インド洋、東南アジア地域など: 危機から立ち直れず徐々に植民地化
- 中国: 伝統的構造を変えずに立ち直り、人口増加と華僑ネットワークの膨張
- 日本: 鎖国のもとで独自の近代化の基盤を形成(18世紀には人口抑制と森林復元、軍備の形骸化をかなり実現)



ご静聴ありがとうございました